「愛顔（えがお）あふれる愛媛づくり」

平成３０年度「知事とみんなの愛顔（えがお）でトーク」知事講話

開催日時：30.6.8(金)
開催場所：今治市総合福祉センター

皆さん、こんにちは。

それぞれお忙しいことと存じますが、「愛顔でトーク」に御参加いただきまして、ありがとうございます。この会は毎年地区ごとに開催させていただいていますが、それぞれの地域でいろいろな分野で御活躍されている皆さんと直接フリーディスカッションの対話をすることで、ときには県の方針を皆さんにお伝えすることもありますし、またそれぞれの立場からこういうアイデアはどうだろう、また疑問点、こういったものをぶつけていただきまして、県政の政策推進にも皆さんのアイデアをいただこうという機会でもありますので、限られた時間でありますが、最後までよろしくお願いいたします。だいたいいつも若干時間がオーバーする傾向がありまして、皆さんそれぞれ事情があると思いますから、お時間が超過するようなときには御遠慮なくそちらを優先していただければと思いますので、事前にお伝えさせていただきたいと思います。

【しまなみ海道を活かした情報発信】

さて、今日は最初に 30 分ばかり県政についてお話をさせていただきたいと思いますが、今日は今治、上島、両地域から御参加いただいています。

この地域におきましては、造船、海運、タオル等々を中心とした産業力をどうバックアップするかというテーマ。それから就任当初、７年ほど前に考えたことはしまなみ海道というものをどう生かしていくかということを当時具体的にこれをやればというビジョンが明確にあったわけではないけれども、世界に通用する仕掛けをどう展開するか、そんなことを考えておりました。途中でアイデアとして浮かんだのがやはり四国には３つの橋が渡っている。その橋のそれぞれを見つめていきますと違いが明確になってまいります。例えば香川県の橋は鉄道橋。徳島の橋は淡路島というものを通じて関西圏と直接結びついている。そして何と言ってもしまなみ海道は唯一自転車の専用道路を持っている。というそれぞれの特色を生かすということが情報発信につながるのではないかと考えました。

今治市さん、上島町さんにもお願いさせていただきまして、大々的にこれに取り組みたい。当時、愛媛県としてはしまなみ海道を第１段階で世界のサイクリストの聖地にするという第１段階の目標を掲げ、これが成功したならば第２段階で愛媛県全体をサイクリングパラダイスにするという構想につなげ、第３段階で四国全体をサイクリングアイランドにするという、３段階の短期、中期、長期の目標を立てて進めていこうというのが当初段階の計画でありました。具体的にどうすればいいかということは、まだその時点では明確ではなかったのですが、情報発信ということを考えれば、これは世界一の自転車メーカーとタイアップするのが一番手っ取り早いのではないかと考えまして、当時どこのメーカーかも知らなかったのですが、台湾にそういったメーカーがあるということを知りました。

【自転車新文化の創造と普及・拡大】

６年前に、これは当たって砕けろということで、台中市にある本社に行きまして、そこでいろいろなヒントをいただくことになりました。3時間ぐらい話をして分かったことは、僕もそれまでは自転車というのはサイクリングを前面に出して観光客が増えればいいなという、そんな動機で見つめていたんですが、それでは長続きしないということを感じました。むしろ、イベントをやって人を引きつけて、単発的に生きがいをもたらす。こういうやり方では長続きしないというふうに感じたんです。

じゃあ、どうすればいいかというヒントをそのときにいただきまして、自転車というものを活用した文化というものをつくっていったらどうかと。これが最終的な結論でありました。よくよく考えてみると、自転車というのは日本人の中では買い物や通学、通勤に使う移動手段というふうに捉えられている方が大半だと思います。ところが、アジアやヨーロッパ、アメリカに行きますと全く違う角度で自転車を見つめている人たちが年々急速に増加していることに気づきます。

いわば、自転車というのは活用方法を考えれば、人々に３つのものをプレゼントしてくれるんです。その第１が健康であり、第２が生きがいであり、第３が友情である。そういう新しい視点での活用方法を自転車新文化と位置づけました。これが地元で楽しいな、仲間が増えるな、これは場合によっては障がい者の方も２人乗りの自転車に乗ることができますし、そういったものを文化として広げていくと裾野が拡大して定着する。その上で、しまなみというコンテンツがある。最終的に情報発信がうまくいけば、日本中から、いや世界から人が来てくれるようになるのではないかと。

当初は活性化を第１に目指していたんですが、結果論として活性化していくというふうに自転車を見つめていくと全く違った風景が見えてくるのではないかということがそもそものスタートでありました。

【「サイクリングしまなみ」（瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会）の開催】

こういったことを今治市、上島町に投げ掛けましたら、大いに一緒にやろうという体制ができまして、そして第１に選んだのが高速道路を止めて６時間だけ自転車に開放してみてはどうかという、日本で初めてのイベントへの挑戦でありました。

当初は国も前例がない。何か事故でも起こったら誰が責任を取るのか。あるいは地域の皆さんもどうなるんだろう。自動車が通れないとするといろいろなところに弊害が出てくるのではないか。あるいは自転車の人が来ても素通りするだけで何もならない。いろいろな意見がありました。

ただ大事なことは、この魅力というものを自信を持って受け止め、磨いて打ち出すということにあるのではないか。例えば、何かあったときの責任は私どもが受けていけばいい話ですし、そして地域の皆さんの不安感も、例えば、素通りするというのは情報発信ができていなかったら素通りするということであります。

まず何よりも人に来ていただかなかったら、活性化のチャンスは生まれない。来ていただいたときにいいものがあって、そしてその情報が的確に発信できて向こうにキャッチされたら、今度あそこにサイクリング行くけど、あそこに行ってデザートを食べよう。あのお土産を買いに行こう。その情報がキャッチされていたら必ずそこに立ち止まって消費活動が起こる。というふうにお考えいただくと、活用の仕方は見えてくるのではないかなというのを当初そんな話をずっとさせていただいていました。

今日は島のほうもずっと回ってきたんですけれども、随分新しいお店が増えましたね。

そして、行く先々でサイクルスタンドが置いてあるお店とか格段に増えていますし。愛媛県としてはそれを整備するために、ブルーのラインを敷くということと、それからＷｉ－Ｆｉスポット。無線でいろいろな情報がキャッチできる拠点をどんどん整備していくということと、地域の方にお願いしまして、サイクルオアシス。おもてなしの体制を取っていくこと。これをすれば日本で最も先進的な環境が整うのではないかな。そんなふうに考えました。

【岩城橋開通後の上島４島の魅力発信に向けて】

これは上島も同じでありまして、とてもいい環境があそこにはある。

ちょうど就任したときに生名橋が開通した時期が私の就任した年でありました。そのときに次なる課題は岩城橋の建設であります。そして、あと３年後ぐらいに岩城橋もつながることになりますが、そこを見越して、できてから何かするのではもう遅いということで、今のうちからしまなみ海道、広島側にはもう１つとびしま海道というのがありますが、もう１つこちら側に何かおしゃれな名前ができればいいのではないですかというお話をしましたところ、募集されてゆめしま海道という非常にいい名前が生まれました。

３年間あります。この岩城橋が架かったら生活の便宜性も向上するでしょうし、これがつながることによって上島４島が結ばれますから、まだいろいろな魅力アップ、バージョンアップの仕掛けができる。そこをどう活用していくかというのに、今から島民の皆さんが考えられたらいろいろなアイデアが生まれてくるのではないかと心から期待しているところであります。

【海外の航空路線の充実によるしまなみ海道の賑わいの創出】

さて、そうした自転車の新文化というものが、追求する第１段階がしまなみ海道を通じての自転車の世界大会でありましたけども、本当に皆さんのおもてなしのお蔭で大好評でありました。当時は 7,500 人規模というのは、日本の自転車のイベントでは最大級。一番多い規模だったんですね。人間というのは欲を言う人がいっぱいいて、しまなみが 7,500 人で日本一だったら、是が非でも 8,000 人の大会をやろうというのが必ず出てくる。どことは言いませんが、今、２番目になっていますけど。そういう競うのは無駄な競い合いなので、あくまでも中身で勝負。どう考えてもいろいろな世界中のサイクリングコースでしまなみ海道に勝るところがあるとは思えないです。それが証拠に２年前にアメリカのＣＮＮ放送局が選んだ世界の７大サイクリングコース。日本で唯一しまなみ海道が選定されたことも、それを証明しているんだと思います。

これは県内だけでなく、また国内だけでなく、世界に通用するコンテンツだと思いますし、それを具体化するために、例えば昨年の 11 月にはソウルへの航空路線が就航しました。

これは搭乗率、今 90％ぐらいです。あまり知られていないですが、本当に安いですね。ソウル－松山。ＬＣＣって安い飛行機ですが、全然安全ですから全く問題ありません。韓国内では一番大きなＬＣＣ会社です。スマートフォンでの予約が中心なんですね。会員登録をすると、そこから予約ができるんですけど。全部で 189 席あって、一番最初に予約すると安いんですね。早く予約したほうが安くて、だんだん、だんだん高くなっていく。こういう料金体系なんです。ソウル－松山は特別運賃だと往復 4,000 円からです。入会したときに 1,000 円の入会クーポン券が来ますから、最初１回目で最初の頃に席を取ると往復 3,000 円でソウルに行けてしまう。こんな路線であります。一番高くて約２万 1,000 円（通常運賃：片道２万 1,450 円）で、概ね１万円（片道割引運賃）ぐらいだと思います。

こうしたような新しい路線でどんどん松山に韓国の若い人が中心に来られています。そのお客さんはとりあえず第１回目は松山に泊まるんです。じゃあ、次にはどこへ持っていくか。南予かもしれないし、しまなみ海道かもしれないし、ここはそれぞれの自治体の腕の見せどころでございます。どうアプローチすれば人が集まってくるかということを自治体ごとにお考えいただいて、我々はそれを側面的に支援するということになりますと、海外の航空路線を使った賑わいというものが新たに可能性として生まれてくると考えています。

先週、台湾のほうに行ってきました。台湾は自転車大国でありますから、ここの路線はどうしても欲しいということで、昨年、日本と台湾の観光サミットを誘致しまして、愛媛県で行いました。今治のほうにも来ていただいたんですけど。そのときに航空会社の副社長さんがいらっしゃって、どうしてもこの人を引きずり込まなければということで、いろいろなアタックをしました。本当に今、大の愛媛ファンになってくれています。昨年秋からチャーター便を 40 本ぐらい飛ばしていただくことになっています。その先に定期便ということも当然視野に入れて、これから交渉を詰めていきますが、ここがまた新しく路線開設になりますと、台湾の人はまさにしまなみ海道を目指して来ると思いますので、そこでどう賑わいをもたらすことにつなげるかというのを、それぞれの自治体の知恵の見せどころかなと思っています。いわば伸びしろはなんぼでもある。それがしまなみ海道、ゆめしま海道の自転車新文化を活用した取り組みになればと心から期待させていただきたいと思います。

今年、４年ぶりに同規模でしまなみのサイクリング世界大会を開催しますが、７コースございますが、一番人気のコースは５分か 10 分であっという間に埋まってしまいました。それぐらい本当に人気のある大会になってきていますので、ぜひ地元の皆さんの力でさらに盛り上げていただければと思います。

【64 年ぶりのえひめ国体、初開催のえひめ大会】

もう１つは、昨年は国体・えひめ大会がございました。64 年ぶりの国体。しかも単独開催は初めて。障がい者の全国スポーツ大会も初めてということで、我々も市町と協力しながら取組みを進めてきましたが、手探りで本当にやっていました。なんせマニュアルがなかったからであります。

このときに必要と考えたのが第１に施設の整備でありました。でも、そんなに財政事情余裕がありませんから、新しいものをお金をかけてつくるのではなくて、既存のものを活用して国体仕様に改修をして仕上げていくのを基本に置かせていただきました。そしてどうしてもというものについては仮設あるいは、それでも駄目だったものは県外開催を３種目だけ選択させていただきました。高飛び込みと、土台やれるところがなかったのが急流をカヌーで流れに沿って、何て言うんですかね。

(事務局)　ワイルドウォーター。

これは愛媛県内に流れの川がないんです。だから開催できる場所がなかった。県外でやらざるを得ない。それと馬術。この３つについては残念ながら県外ということになりましたが、あとの種目は地元で開催することができました。

特に今治には眞子さまもお越しになられまして、野間馬と久しぶりの対面をしていただいたこともあって、本当に強く印象に残っています。上野動物園に野間馬を愛媛県の今治

から持って行ったのが 2008 年ぐらいだったんですかね。そのときに眞子さまが贈呈式に出席されていたのが御縁だったそうです。それがあったので愛媛に行くならばどうしてもということで、今治にお越しいただいたのが今回の国体時の背景にあったわけであります。こうしたような施設の整備が第１。

２つ目は受入体制です。これは今治市さんも上島町さんも、上島町でも軟式野球をやっていただきましたので。どうお迎えするか。お迎えを本当に温かくやれば、来た方は必ずファンになっていただける。ファンになっていただけると帰ってから宣伝をしていただける。あるいは御本人たちがまた来ようということでリピーターになっていただける。だからおもてなしというのは本当に大事だと思います。

幸い今治、上島は民泊はなかったんですが、南予のほうに行きますと泊る場所がないので、どうしようか悩んでいました。宇和島市と鬼北町と西予市と四国中央市だけは宿泊する場所がないので、民泊を実施させていただいたんです。国体で民泊が実施されるのは５年ぶりのことで、今年の国体では実施しないことになりましたので、本当に久しぶりに愛媛県だけがやったということなんですが。

西予はお相撲の大会だったんですね。当初、皆さん、えーっていう感じで大丈夫なのかな、民泊なんかで、受け入れられるのかな。なんとなく、あまり前向きというかしょうがないという雰囲気もあったんです。ところが、もうやったらガラリと変わるんですね。各県の選手たちがそれぞれの家に民宿してもらっている。みんな我が子のようになってしまうんですね。普段、家に閉じこもっているおじいちゃん、おばあちゃんが会場に来て太鼓はたたくわ、大声出すわと見違えるように元気になっていくんです。

野村にこの前行ったら、どうだったのおばちゃんって言ったら、「いや、大変なものやったよ。」と。お相撲さんですから体がでかいわけですよ。まず、食事の支度が食べる量が半端じゃない。米がなんぼあっても足らないという話で。初めてうちに来たときに選手たちに「冷蔵庫の物は自由に食べてええけんな。」と言ったら、翌朝すっからかんになっていたとか、ですね。そんな楽しい思い出話で今でも花が咲いています。

民泊した子たちは、その後、年が明けてから家族と一緒に来たりという交流も続いているようなので、本当におもてなしというのがすごい力になるんだなということを感じました。特に子どもたちが開会式や閉会式では大活躍してくれまして、各県ごとに横断幕をつくって、そして何々県がんばれと 47 都道府県ごとの応援団をつくってくれたんですね。県の選手団はそんなの今までの国体にありませんから、それを見ただけで泣いている選手もたくさんいたりして、あの子どもたちの活躍というのは大きな力になったのではないかと感じます。

また、障がい者のスポーツ大会では学生ボランティアが大活躍してくれまして、800 人どうしてもボランティアが必要だったのですが、全ての専門学校が協力してくれまして、最終的には 800 人どころか 1,600 人の学生ボランティアが参加してくれました。初日、大会の前に学生ボランティアがいっぱい集まっているのに行ってみたんです。そのときはやれば単位になるからという、なんとなくそういう雰囲気がありました。でも、４日経った閉会式のときにはもう表情が一変しまして、どうやったって聞いたら、「知事、まだ閉会式が終わったら僕の担当している選手たちを空港までしっかり送り届けないといけないんですよ。まだまだ仕事が残っているんです。」という、もう全然違う表情になっているんですね。だから、こういったものに関わったことによって、人を支える価値であるとか、助け

合う喜びというものを若い世代が体験できたというのも大きなレガシーなのかなと感じています。

先週、愛媛県の障がい者のスポーツ大会がありました。例年、学生のボランティア 80 人ぐらいです。今年はその効果というかぬくもりもあって、250 人参加してくれています。人の心というのは、そういう意味では何かをきっかけにどんどん変わっていくのではないかなということをつくづく感じているところでございます。

さて、最後にもう１つが競技力の向上でありました。この今治地域もボート等々が大活躍してくれていましたけれども。本当に愛媛県の選手たちが全国の舞台で活躍するのは多くの人たちに夢と力をくれるんだなということを感じます。東京をともかくやっつけるぞという最大の目標があったのですが、残念ながら及びませんでしたけれども、素晴らしい成績で過去最高の２位という結果を残してくれました。その中には東京オリンピック・パラリンピックに十分、選手になれる可能性を持ったアスリートがいます。

【国体のレガシーを生かした新たな県庁組織の発足】

そんな夢を追い続けていきたいと思いますし、そのために４月から愛媛県ではこのぬくもりの残っているうちに次なる一手を、ということで、スポーツ・文化部という部署を新たに立ち上げさせていただきました。ここで生涯スポーツの普及や文化活動の側面的な支援、そしてアスリートの育成。いろいろなことをやっていく予定にしています。

【東京オリンピックに向けた事前合宿等の誘致】

またオリンピックの事前合宿、パラリンピックの事前合宿、こういったことにもチャレンジしていきたいと思いますが、たまたま僕自身がバドミントンの選手だったので、今、愛媛県のバドミントン協会のお仕事をさせていただいています。その関係で２年前からマレーシアのバドミントンナショナルチームの事前合宿を取れないかという交渉をしていましたら、先月、正式にＯＫが出ましたので、とりあえずまず第一弾としてマレーシアのバドミントンナショナルチーム。これは今年はマレーシアジュニアのナショナルチームの合宿。来年がナショナルチームとジュニアの合宿。再来年がナショナルチームの合宿。最低４回やっていただけることになりました。

マレーシアのバドミントンは強いんですね。日本も今、すごい強いんですけど。前回のリオでは男子シングルス、男子ダブルス、混合ダブルス、全部銀メダルを取っている国ですから、日本の最大のライバルになる可能性もあるので、それはそれでちょっと困ったなということもありますが、こうした世界トップレベルの事前合宿ということになりますと、選手たちが身近に見れるというのもスポーツの素晴らしさなのかなというふうにも感じているところであります。そのほかにもサウジアラビアの重量挙げ、オーストリアのクライミング、台湾の野球等々、各市町も頑張ってくれていますので、１つでも多く実現をして、オリンピックやパラリンピックがより身近なものとして感じられるような雰囲気をつくっていきたいと思います。

【日本スポーツマスターズの開催】

そのオリンピックが終わった直後になります。2020 年９月になりますが、これは２カ月前に正式に決定をいただきました。日本スポーツマスターズという、壮年の国体と言われている大会が正式に愛媛県で開催されることになりました。国体が選手、監督で２万 2,000 人だったんですが、こちらは関連スポーツイベントを含めると、１万 5,000 人ぐらいの規模になります。国体ほどではないですが、これからどの地域でどの種目をやるかというの

は手を挙げていただいて、ということになりますが、35 歳以上の５歳刻みで各種目のトップアスリートたちがまた愛媛で素晴らしいプレーを見せてくれるのではなかろうかと思いますし、国体よりも 35 歳以上になりますと家族で来る人が多いですね。ということはファンをつくるまた絶好のチャンスと位置づけることができるのではないかと思っています。

こうしたように自転車にしろ、スポーツにしろ、１つのことというのは戦略をきちんと持てば人々をつなぐことにもなるでしょうし、また地域の活性化に結びつけられることもあるでしょうし、いろいろな効果が後々残っていくのではないかなと信じています。こうしたような知恵をこれからも大いに絞りながら愛媛県の魅力を発信していきたいと思います。

【県の施策の３つの柱】

いずれにしましても、今日は時間の関係で後々の皆さんの御質問の中でお話しさせていただきますが、愛媛県というのは今、一番大きな柱は県民の命を守る防災・減災対策であります。ここには公の施設の耐震化、あるいは防災士の育成、そして去年から運航を開始したドクターヘリコプター等々、さまざまな政策があります。

２つ目が少子高齢化に伴う人口減少対策であります。これには出生率をどうすれば上げられるのか。もう１つは人口の流入をどう拡大していくか。もう１つは人口の流出をどう食い止めていくか。この３点からさまざまな政策メニューを考えているのですが、その中の１つに子育て支援も入っています。

昨年、愛媛だけでしかできない子育て支援がスタートしました。これは今治、上島ではないですが、愛媛県には四国中央市に紙の大きな会社が２社ございます。西条市にもその関連の子会社のマザー工場があります。この３社で日本の紙おむつの７割以上のシェアを誇っています。これを活用しない手はないということで、３社にお願いしまして協賛をいただきました。市町と県が協力しまして紙おむつメーカー３社と 20 の市町と県でシステムをつくって昨年８月から愛媛県内はどこに住んでいても２人目のお子さんが生まれた場合は１年間紙おむつが無料で支給されるという子育て支援の一環としての事業をスタートさせていただきましたけれども、こういったような地域の特色というものをしっかりと見い出して、オリジナルな政策を考える。こういうのも大事な時代ではないかなと考えています。

最後は地域の活性化でありますが、先ほど申し上げました人に来ていただくような施策をどうしていくのかが１点。もう１つは、その地域にある物やサービスをどう外に売って収益をもたらすかという点。この２つのアプローチで地域活性化策を考えているところであります。

ちょうど 30 分経ちましたので、またそういった質問については質問の中でお話しさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げまして、私の御挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。